

北海道社会学会ニュース

H.S.A.NEWSLETTER

発行：北海道社会学会事務局

〒060-0062 札幌市中央区南2条西10丁目 クワガタビル

北海道NPOサポートセンター気付

FAX: 011-261-6524 E-mail: socio@npo-hokkaido.org 担当 松本

郵便振替口座 02760-3-3085 URL <http://www.soc.nii.ac.jp/hsa>

HOKKAIDO SOCIOLOGICAL ASSOCIATION

c/o Hokkaido NPO Support Center,

Kuwagata Bldg., Minami 2 Nishi 10, Chuo-ku, Sapporo, 060-0062 JAPAN

Newsletter Editor: HIRASAWA Kazushi

編集責任者：平沢和司（庶務理事）

北海道大学大学院文学研究科 hirasawa@cme.hokudai.ac.jp

〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目

TEL 011-706-3322（直通）

FAX 011-706-4916（事務室）

第55回北海道社会学会大会について

第55回北海道社会学会大会は、6月16日（土）・17日（日）の2日間、北海道武蔵女子短期大学（札幌市北区）において開催されました。大会運営に際しては、梶井祥子会員をはじめ開催校のスタッフ・学生の方々に多大なるご協力を、また同校からは大会開催補助金をいただきました。この場をかりて厚く御礼申し上げます。

今回の大会では、自由報告8本（ほか発表辞退1本）、およびシンポジウム「親密圏と暴力カードメスティック・バイオレンスと男の性的欲望をめぐる問題群を糸口にして」において、活発な討論が行われました。大会参加者数は学会員53名、非会員6名でした。大会初日の夕方には、ホテルサンプラザで懇親会が開催され、大会参加者同士の親睦が深められました。

第55回北海道社会学会総会について（第55回北海道社会学会総会議事抄録）

日時：2007年6月16日（土）15:40～16:30

会場：北海道武蔵女子短期大学 438教室

議長：鎌田哲宏会員

報告事項

1. 庶務報告（小内透庶務理事）

1-1. 会員異動（2006年6月～2007年5月31日）

新入会員4名・退会会員12名（うち自然退会8名）の計8名減で、5月31日現在の会員数は一般会員137名・学生会員34名の計171名。

1-2. 理事会の開催

例年通り3回開催（2006年11月・2007年2月・6月）した。

1-3. 会報の発行

例年通り4号発行（No.68～71）した。

1-4. 会員名簿の発行

4月の異動に関する情報を反映させるため発行時期を、従来の（選挙が行われる年の）1月から4月に変更して発行した。

1-5. 学会研究奨励賞の交付

2006年10月31日に第1回募集が締め切られ、2件の応募中2件に交付した。規定（後掲）により受賞者は『現代社会学研究』に投稿する義務のあることが付言された。

1-6. 他機関からの依頼への対応

①日本学術会議社会学系コンソーシアムへ登録した。

②科学技術振興機構からの電子アーカイブ対象候補誌基礎調査へ回答した。

2. 研究活動委員会報告（原俊彦研究活動委員長）

今回大会のシンポジウム開催を企画・運営した。

3. 編集委員会報告（井上芳保編集委員長代理）

『現代社会学研究』第20巻を編集・発行した。

4. 役員選挙結果（中田知生選挙管理委員長）

2007年4月に役員選挙を行い、5月に新役員が選出された。

5. 新役員の役割分担（小内透庶務理事）

会長：笹谷春美

副会長：小内透

研究活動委員会：櫻井義秀（委員長）・加藤喜久子・

飯田俊郎*・片桐資津子*

編集委員会：内田司（委員長）・小内純子・樽本英

樹・宝福則子*・西浦功*

会計担当理事：大國充彦

庶務担当理事：平沢和司

監事：原俊彦*・松田光一*

（敬称略、*は理事外、新役員・委員の任期は大会終了の翌日より2年後の大会終了日まで）

6. 第56回大会開催校について

旭川医科大学に決まり、同校の松岡悦子会員から

挨拶があった。

議題

1.2006 年度決算（松岡昌則会計担当理事の説明、監事 2 名は欠席のため松岡理事が監査結果を代読）

提案（後掲）のとおり承認された。

2.2007 年度予算案（松岡昌則会計担当理事）

提案（後掲）のとおり承認された。

北海道社会学会会長就任にあたって

笹谷 春美

「改革」「再編」「改組」…の嵐が吹き荒れている。本来なら静かなアカデミックな領域に身を置いているはずの私たちの周りもざわめかしいこと、この上ない。まるでミヒヤエル・エンデの『モモ』に登場する時間泥棒に、わたしたちの研究や教育の時間が盗まれてゆくように忙しさに追まわられている。しかし、こんな時代だからこそ、北海道の研究者コミュニティとしての本学会の存在意義を今一度問う必要がないだろうか。大学間を越えた、あるいは若手とベテランの世代を超えた情報交換や研究上の切磋琢磨の関係を蓄積し、各会員が学会に所属することが有意義で楽しいと感じ、エンパワーメントされるためにはどうしたら良いだろうか。会員諸氏とともに役員一同、時間と能力を出し合ってこの問いを追求してゆく所存である。

第 55 回大会シンポジウム「親密圏と暴力—DV と男の性的欲望をめぐる問題群を糸口にして」について

井上 芳保

報告者 3 人、コメンテーター 2 人で企画されたが、実際には組織者の井上の意向で 5 人それぞれが独自の視点から話題提供をする形となった。密度の濃い内容の話題提供が続いた。

近藤は、DV 被害者のシェルターを運営してきた立場から DV が殺人に及んだケースなど過酷な実態について報告した。川畑は、疑似的親密圏といえるホステスクラブでの参与観察調査によって得た知見に基づき DV が反復される構造や被害者女性がアイデンティティを喪失していく経緯を考察した。井上は、共依存に着目し、男性の暴力抑止のために「暴力」概念の拡張によって「ラディカルな被害者中心主義」を進める方向性には疑問を呈して近代主義とは別の発想が効果的と主張した。また近代主義を超えた共生への関心からなされる栗原彬による親密圏の斬新な捉え方を紹介した。木戸は、ファイマン『家族、積みすぎた方舟』を参照して「性愛に媒介された関係性」とは別の「依存に媒介された関係性」

に着目することの重要性を指摘し「必然的依存」への応答としてのケア、非対称な関係性として母子関係の意義を捉える視点から親密圏の有する新たな可能性に言及した。高橋は、親密な関係とプライベートな関係との相違に注意を促し、ルーマン『情熱としての愛』には暴力の問題は全く登場せず、暴力による強制はルーマンの捉える親密な関係とはなじまないことを指摘した。また斉藤環の『「性愛」格差論』における社会システム論への言及について包摂と排除の構造に関するルーマンの主張を拠り所に批判した。

実証研究、理論研究の最先端から提示された数多くの論点はどれも意義深いものであり、質疑応答と討論時間の不足が惜まれる。

委員会報告

研究活動委員会（櫻井義秀委員長）

6 月 17 日の委員会初回は、委員長櫻井と委員（加藤、飯田、片桐）の 4 名で下記のことを話しました。

次会旭川医科大学の大会を 2 日日程で組むか、コンパクトに 1 日で組むか。結論を得ず。この案は櫻井が提案したもので、今回のような 10 本弱の発表数であれば 2 部会で行うと半日で終わり、仮にシンポジウムを開催しても 1 日で済む。このほうが、開催校の負担や学会員の忙しい日程を考えると都合がよいのではないかということ。もちろん、遠方の会員は 2 日にまたがり 1 日半開催するのと実質的には変わりはないという意見もあり、また、発表数の見込みが最大時に十数本あったことを考えると、複数部会制にしないと 1 日開催は難しくなる。なお、旭川で開催した場合、釧路・函館、本州地区会員は前泊・後泊が必要になる可能性もあり、日程短縮は開催校と札幌圏に限られるという問題もある。

いずれにしても、北海道社会学会の会員の多くは様々な全国学会（日本社会学会、各専門領域の社会学会等）において活動しているので、北海道地域の社会学研究における主導的役割を担うために北海道社会学会が長年果たしてきた幾つかの機能についてはコンパクトにまとめる方向で考えていってよいのではないかと櫻井は考えている。

シンポジウムの課題については、開催校との関わりで医療と社会学、教育（高等教育）と社会学、社会学教育の反省的捉え直し（社会学教育が果たす役割）等、幾つか案は出されたが成案には至っていない。今後、メール等で連絡し合い、まとめていきたい。

北海道社会学会の研究活動推進（或いはコンパクト化）に関してご意見等ありましたら、櫻井（saku@let.hokudai.ac.jp）までお寄せ下さい。

『現代社会学研究』原稿募集について

『現代社会学研究』第21巻(08年6月刊行予定)に投稿を希望される方は、学会事務局(socio@npo-hokkaido.org)へメールでその旨を申し出てください。折り返し「投稿申込者カード」が返信されてきますので、ご記入のうえ8月31日(金)必着でメールの添付書類(ファイル名は「投稿申し込み〇〇.doc」〇〇は申込者の氏名)として、事務局へ再度お送りください。原稿の提出期限など詳細は同誌巻末に記載されている「編集・投稿規定」および「執筆要項」をご覧ください。

なお、西日本社会学会との交流協定(詳細はニューズレターNo.64参照)に基づき、本学会員は西日本社会学会の機関誌へ投稿することが可能です。詳細は同学会のホームページを参照してください(<http://www.lit.kyushu-u.ac.jp/~sociowest/index.html>)。

『現代社会学研究』書評対象図書について

『現代社会学研究』第21巻の書評対象として推薦する図書がある方は、自薦他薦を問わず、8月31日(金)までに図書現物を事務局あてにその旨のメモとともにお送りください。

北海道社会学会研究奨励金について

北海道社会学会では社会学研究の活性化と若手の育成を目的として、昨年度より研究奨励金を交付しています。ついては下記により奨励研究を募集いたします。ぜひご応募ください。

- 1.募集件数：2件(1件5万円)
- 2.応募資格：本学会員(若手単独が望ましい。若

手とは、自分で科学研究費申請ができない地位にある大学院生や大学院修了者等を指す)

- 3.条件：奨励金交付後2年以内の本学会大会での研究発表、および2年以内の『現代社会学研究』への投稿を条件とします。
- 4.応募方法：まず応募用紙を庶務理事あて e-mail でご請求ください。ついで応募用紙に下記を記入し、庶務理事まで郵送により提出してください。
 - ①研究テーマ、②応募者(氏名・所属) 〒・住所・TEL・FAX・e-mail アドレス、③研究の目的と「社会学研究」としての意味・位置づけ等(具体的に)、④研究の方法と予想される成果(具体的に)、⑤指導教員のサインと印
- 5.提出期限：2007年10月31日(水)必着
- 6.提出先・問い合わせ先：平沢和司(庶務理事、あて先は1ページ参照)

会員異動(2007年6~7月)

<省略>

会費の納入について

2007年度会費または未納分会費について、同封の郵便振替用紙[郵便振替口座02760-3-3085]にてすみやかに振り込み手続きをお願いいたします。年会費は一般会員6,000円、学生・院生会員4,000円です。2007年度会費を納入されていない方には、機関誌第20巻(本年6月発行)をお渡しできません。5年間滞納されると、自然退会の扱いとさせていただきます。

2006 年度決算・2007 年度予算案・第 55 回大会会計報告
<省略>